

第1回丹沢大山自然再生委員会 会議議事録

1. 日時 : 平成18年10月24日(火) 18:00~19:30

2. 場所 : 波止場会館 4階 大会議室

3. 出席者 :

(委員総数41名)(委員出席数:29名)

| | | | |
|-------------------|--------|-------|--------|
| 東京農工大学 | 名誉教授 | 木平 勇吉 | 委員長 |
| NPO 法人神奈川県自然保護協会 | 理事長 | 新堀 豊彦 | 副委員長 |
| NPO 法人丹沢自然保護協会 | 理事長 | 中村 道也 | |
| 日本野鳥の会 神奈川支部 | 副支部長 | 石井 隆 | |
| 神奈川県山岳連盟 | 会長 | 大曾根 弘 | |
| NPO 法人みろく山の会 | 理事長 | 高橋 昌嗣 | |
| NPO 法人北丹沢山岳センター | 理事長 | 杉本 憲昭 | |
| 丹沢大山ボランティアネットワーク | 世話人代表 | 有川百合子 | |
| 丹沢資料保存会 | 副代表 | 渡邊 恒美 | |
| (株)テレビ神奈川 | 営業部長 | 押川 涉 | |
| (株)アール・エフ・ラジオ日本 | 本社営業部長 | 藤井 純 | |
| 横浜エフエム放送(株) | 広報部長 | 飯島 和夫 | |
| トヨタウエイズグループ | | 長谷川潔 | (代理出席) |
| サントリー(株) | 環境部長 | 高屋 雅光 | |
| (財)かながわトラストみどり財団 | 事務局長 | 松本 和也 | |
| 神奈川県農業協同組合中央会 | 常務理事 | 原田喜代治 | |
| 神奈川県森林組合連合会 | 代表理事専務 | 蓮場 良之 | |
| (社)かながわ森林づくり公社 | 専務理事 | 後藤 常勝 | |
| 日本獣医生命科学大学 | 助教授 | 羽山 伸一 | |
| 生命の星・地球博物館 | 専門学芸員 | 勝山 輝男 | |
| 日本大学 | 教授 | 糸長 浩司 | |
| (株)野生動物保護管理事務所 | 代表取締役 | 羽澄 俊裕 | |
| 秦野市環境農政部 | 部長 | 高橋生志雄 | |
| 伊勢原市生活経済部環境保全課 | | 安藤 隆幸 | (代理出席) |
| 松田町産業建設部 | 部長 | 村井 満 | |
| 愛川町環境経済部環境課 | 課長 | 沼田 卓 | |
| 清川村建設経済部 | 部長 | 齊藤 満雄 | |
| 関東森林管理局東京神奈川森林管理署 | 署長 | 片岡 辰幸 | |
| 神奈川県環境農政部 | 部長 | 小野 義博 | |

(オブザーバー)

| | | | |
|--------------|----------|-------|--------|
| 神奈川県環境農政部森林課 | 副課長 | 小宮 重寿 | (代理出席) |
| 神奈川県環境科学センター | 所長 | 飯田 和義 | |
| 神奈川県商工労働部 | 観光振興担当課長 | 古谷 幸夫 | |

(事務局)

| | | | |
|----------------|----|-------|--|
| 神奈川県環境農政部 | | 伊藤 正宏 | |
| 神奈川県環境農政部緑政課 | 次長 | 松田 宏一 | |
| 神奈川県自然環境保全センター | 課長 | 岩崎 和男 | |
| | 所長 | | |

4. 仮議長選出

役員が選出されるまでの間、丹沢大山実行委員会委員長の新堀委員に仮議長として議事の進行する事となった。

5. 議案

(1) 丹沢大山自然再生委員会設置要綱(案)について

山田横浜事務局員から資料1により説明

要旨：・委員会の所管事項は丹沢大山の自然再生事業(実施)計画案の協議などの5項目

- ・役員構成は、委員長、副委員長及び2名の監事
- ・委員及び役員は原則無報酬
- ・専門部会の設置が可能
- ・事務局は、神奈川県環境農政部緑政課と自然環境保全センターに置く。
- ・資金は、負担金、協賛金及び寄付金収入をもって充てる。

《質疑》

特になし。

要綱(案)は誤字を訂正して承認された。

(2) 再生委員会役員及び専門部会の部会委員の選任について

ア 役員を選任

承認された設置要綱第6条に基づき役員を選出を行なった。

規定では委員の互選となっているが、中村委員から「木平委員を委員長とし、その他の役員は委員長に一任」という提案があり、満場一致で了承された。

木平委員長から、「副委員長は新堀委員、監事は中村委員、有川委員にお願いしたい。」との提案があり、満場一致で了承された。

| | | |
|------|-------|-----------------------|
| 委員長 | 木平 勇吉 | 東京農工大学名誉教授 |
| 副委員長 | 新堀 豊彦 | NPO 法人神奈川県自然保護協会理事長 |
| 監事 | 中村 道也 | NPO 法人丹沢自然保護協会理事長 |
| 監事 | 有川百合子 | 丹沢大山ボランティアネットワーク世話人代表 |

イ 専門部会の部会委員の選任

山田横浜事務局員から資料2により事務局案を説明

要旨：・部会の名称は「事業計画・評価専門部会」

- ・部会の役割は各主体による自然再生事業の計画と、その計画に基づき実施される事業の評価方法の協議
- ・平成18年度は、県の「丹沢大山保全計画」の改定を中心に協議するが、短期間で効率的に行う必要があるため、基本構想を取りまとめた総合調

査実行委員会の調査企画部会を中心とした部会員の案を作成した。

《質疑》

【石井委員】

ブナ林、溪流、地域再生の専門の方がお1人ずつなので、少し荷が重いのではないかと。今後広げていくというならいいのですが。

また、日本野鳥の会神奈川支部としても、NPO 団体等としてこの事業評価委員会にぜひ参加したい。

【横浜事務局】

県の保全計画の改定について、早急に意見をいただきたいという考えで、丹沢大山基本構想を取りまとめ、内容を熟知している調査企画部会を中心に事務局案をまとめた。今後の議論の中で部会員の補強が必要であれば、専門部会で検討し委員会に諮っていきたい。

また、NPO 団体等の部会員につきましては、様々な NPO 団体等の意見が代表できると考えた2団体でまとめさせていただきました。短期間で効率的に進めるため、小数に絞った案になっている。

【議長】

補充、強化は専門部会で決めるのか。それとも専門部会が提案して、再生委員会の承認ということになるのか。

【横浜事務局】

部会員以外の専門的な知見を有する者を臨時的に参加させるのは部会でできるが、専門部会員としての正式に追加するのは、委員会での承認が必要となる。

【糸長委員】

各部会員の役割を細かく、きちっと書くべきではないか。自然公園の適正利用やツーリズムについて、資料では担当が分からない。この分野に関しては、ポラネットに参加してもらってもよいのではと考えている。

【議長】

事業計画・評価専門部会の役割については、今回事務局案のとおりで決定するというのではなく、専門部会で検討し次回の委員会で改めて提案するのが良いと考える。

また、各部会員の専門が資料に明記されているが、部会員は全体の計画とか事業の評価を行い、各々が8課題に専門的に張り付くという考え方を採る必要はないと考える。

日本野鳥の会神奈川支部の専門部会への参加については、各委員の意見を伺いたい。

【新堀副委員長】

とりあえず事務局案でスタートさせて、その後参加の機会を設けるようにしたらどうか。

【杉本委員】

ツーリズムの項目を追加する必要がある以外は、事務局案でよいと思う。

【渡邊委員】

丹沢の利用と次世代の教育について検討してもらいたい。

【中村委員】

ツーリズムは地域再生の中で考えればよい。部会員の追加については、保全計画について短期間で検討することを考えれば、事務局案でスタートさせ、保全計画改定後年度が変わってから考えればよい。

【議長】

丹沢の利用と次世代の教育についての提案を踏まえ、事業計画・評価専門部会の役割について整理しなおす必要がある。

ただし、各課題の担当を決める必要はなく、部会で検討すべき事が明確になっていれば良い。

部会員の拡充については、部会の検討の中で、必要であれば行っていくということではいかがでしょうか。

【石井委員】

オブザーバー参加は可能でしょうか。

【議長】

皆さんいかがでしょう。

(特に異義がなく、石井委員はオブザーバー参加となった。)

【勝山委員】

専門部会に川又委員が参加していないのなぜか。

【横浜事務局】

川又委員は森林整備、人工林関係の知見を有し、また、実際の活動もされているということで委員会に参加していただいたが、専門部会でのその分野における知見は、木平委員と富村委員に願うという案にさせていただいた。

川又委員の参加の必要性も、部会の中で検討いただきたい。

【議長】

専門部会は、事務局案にオブザーバーの日本野鳥の会神奈川支部を加えて発足させるということではいかがでしょうか。

(特に異義はなく承認された。)

(3) 事業計画(案)及び予算(案)について

山田横浜事務局員から資料3により説明

要旨：・H18年度事業計画 再生委員会3回、専門部会4回、セミナー2回を予定

・H18 予算 収入 150 万円

支出 再生委員会等開催費 53 万円

次年度繰越し 97 万円

《質疑》

(特に異義はなく承認された。)

(4) その他

【議長】

今日は第1回目の委員会なので、議題にとらわれずフリーなご意見を伺いたい。

【有川委員】

第1回セミナーが12月20日前後に予定されており、あまり期間もないので早めに詳細を決めていただきたい。私どももPRで協力したいので。

【横浜事務局】

努力します。

【杉本委員】

総合調査実行委員会で行った公募型事業を、再生委員会でも継承して実施していただきたい。

また、地域再生の活動について、今後民間から資金を得ながら継続的に活動していけるような体制が作ればよいと考えている。

【横浜事務局】

公募型事業などの自主事業や、その基盤ともなる資金の面に関しては、別途専門部会を設けて検討していく必要があると考える。次回以降の再生委員会でご検討いただきたいと考えている。

【糸長委員】

18年度予算では100万円の県の負担金が計上されているが、平成19年度についても、そろそろ予算編成も始まる時期であり、県とその他協賛金や寄付金でどのくらいを見込んでいるかを教えてほしい。

【横浜事務局】

この再生委員会は本日設立されたばかりで、今後委員会でどのようなことを実施していくかは、これから議論していくことになる。議論が深まり、どのような事業を実施し、それにはどのくらいの予算が必要かが明らかになった段階で、本委員会にご賛同いただける方からご支援を頂きたいと考えている。

【新堀副委員長】

この再生委員会と並行して、県でも推進体制を強化しており、その流れで予算についても努力していることと推察している。明確なことは立場上言えないと思うので、やれるだけのことはやっていると理解してよいのではないか。

【横浜事務局】

提言を踏まえ努力しているところです。

【石井委員】

県以外の再生計画についても協議するために、次回の委員会ではその手続などを行う必要があるのでは。野鳥の会でもいくつか計画がある。

【議長】

この委員会は、まさに委員の提案型委員会だと思いますが、いろいろな案

があれば、できれば直接この委員会に出す前に専門部会の方で十分検討していきたいと考えています。

【中村委員】

今までの各委員のお話からは、県の予算があってはじめて再生事業が行なわれるように感じ取れたが、そうではなく、私は、県の予算で行う事業と再生委員会が行う事業は別だと思う。再生委員会は、協賛金などを柱として自分たちの事業を実施していくものと理解している。

【議長】

中村委員の理解が正しいと思う。この委員会が事業の項目を決め、それについて県が予算をつけるという性質では全くない。

この委員一人一人、あるいは委員会として提案をしていくということ、財源も原則として自主財源だと考えている。そのところが、総合調査実行委員会とは根本的に違うのではないかなと思う。

皆様もそのような理解でお願いしたい。

6. その他

事務局から県の推進体制について報告

峯村横浜事務局員から資料4により説明

要旨：・副知事をトップとする丹沢大山自然再生推進本部の設置が、政策会議で了承された。

- ・既存の丹沢大山保全対策とその作業部会を推進本部の下部組織として位置づけ、推進本部に議論を上げていくという仕組みにした。

7. 次回日程

日時：11月27日（月曜日）17時から

場所：神奈川県建設会館(株)新館2階講堂

以 上